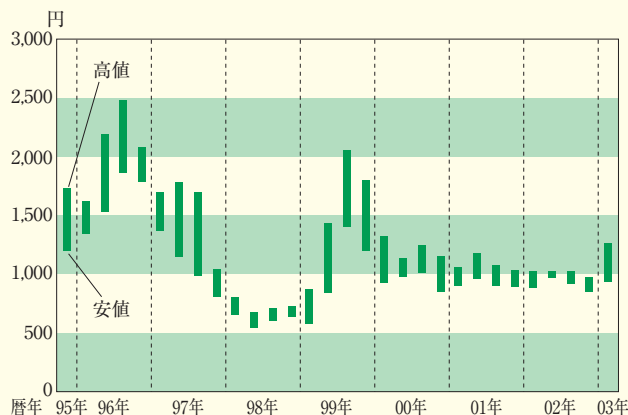


■ 株価の推移



■ IR 活動レポート

当社の株式は本年3月3日に東京証券取引所第一部市場に指定されました。これも株主様のご支援のお陰と感謝申しあげると共に、今後もより多くの投資家から当社及び当社の属する自動車部品の整備・補修業界に注目を獲得する切っ掛けになるものと期待しています。

昨年12月には15万株の「立会外分売」を実施し、市場環境の悪い最中に1.24倍の応募を頂きました。その結果株主数も2,349名と昨年度末比285名の増加となりました。

今後も経営状況をより迅速に開示し、株主様・投資家様の満足を頂ける様に努めます。なお、当期より決算短信、決算公告をホームページに掲載しています。

		98年	99年	00年	01年	02年
配当金(円)	SPK	16.0	21.0	26.0	28.0	30.0
	東証1部平均	6.7	6.2	5.8	5.6	5.1
配当利回り(%)	SPK	2.5	1.5	2.5	2.8	3.0
	東証1部平均	1.2	1.0	0.9	1.1	1.3
ROE(%) (株主資本利益率)	SPK	10.6	12.1	7.9	10.4	9.8
	東証1部平均	0.7	0.4	2.3	-0.7	
DOE(%) (株主資本配当率)	SPK	1.9	2.3	2.5	2.6	2.5
	東証1部平均	1.7	1.6	1.7	1.5	
株主資本比率(%)	SPK	52.3	54.4	54.2	59.2	61.5
	東証上場全社 (除く金融業)	21.9	22.5	23.1	23.3	

(東証統計月報より当社作成)

■ 会社概要

商号 SPK株式会社
 証券コード 7466 (東京証券取引所市場第一部)
 本社所在地 〒553-0003 大阪市福島区福島五丁目5-4
 電話06-6454-2571 FAX06-6454-2494
 ホームページ <http://www.spk.co.jp/>
 会社設立 1917年(大正6年)
 営業目的 自動車部品・用品/卸・輸出入
 産業機械車両部品/企画・販売
 取引銀行等 (株)UFJ銀行・(株)みずほ銀行・(株)東京三菱銀行・
 (株)りそな銀行・UFJ信託銀行(株)

■ 役員

代表取締役兼 社長執行役員		中嶋 功
取締役兼 専務執行役員	国内営業本部長	小高 伸介
取締役兼 常務執行役員	海外営業本部長	砂川 裕 伸
取締役兼 常務執行役員	国内営業副本部長	角田 孝 治
執行役員	管理本部長	中田 陽 市
執行役員	工機営業本部長	江崎 隆 治
執行役員	東京支店長	木林 靖 治
執行役員	カスタマイズパーツ部長	三原 将 典
常勤監査役		遠藤 肇
監査役	(公認会計士)	榎 卓 生
監査役	(弁護士)	中 務 尚 子

■ 株主メモ

決 算 期 3月31日 定時株主総会 6月
 利益配当金 3月31日 中間配当金
 受領株主確定日 受領株主確定日 9月30日

1単元の株式の数 100株
 名義書換代理人 UFJ信託銀行(株)
 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
 同事務取扱場所 UFJ信託銀行(株)大阪支店証券代行部
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 電話 大阪 (06) 6229-3011 (代表)
 UFJ信託銀行(株)本店および各支店
 野村證券(株)本店および各支店

同 取 次 所 日本経済新聞

公告掲載新聞 日本経済新聞
 なお、当社は当期より決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書を当社のホームページに掲載することといたしました。

東証一部上場なる 社長 中嶋 功

おかげさまで当社は3月3日、東証第一部指定になりました。ご指導、ご支援を賜りました当社を取り巻くすべての関係者に、心から感謝申し上げます。SPKマンもよく努力してくれました。夢の実現に向けて、長期にわたり挑戦してきた思い出を、この達成感と感動を、みんなで共有できる幸せをかみしめています。

昭和天皇が崩御し、ベルリンの壁が破れた89年に、「企業変革」に立ち上がってから14年目の春です。わが国で「失われた10年」といわれた90年代を、ひたすら人材育成に取り組みました。新しい企業理念の浸透と企業文化の創造を掲げて、92年には社名をSPKに改称しました。

新創業運動の潮流が加速し、モチベーションが高まるなか、阪神大地震の95年秋、株式を店頭（現ジャスダック）に登録し、株式公開企業の仲間入りをしました。1917年の会社設立以来、実に78年目の出来事でした。

さらに5年後の2000年に東証第二部に上場し、つづいてデフレ不況に苦しみながらも、この春、長期経営計画を成就させることができました。

真面目・熱心な社員とよい取引先に恵まれました。バブル崩壊後の逆境も私たちを鍛えるよい風となりました。すべてよし。運がよかったです。

私たちの真価が問われるのはこれからです。まだまだ未熟であり、非力です。でも、ここまで来ることができたのは、みんなが一生懸命勉強し、力一杯働いたからです。当社がライバル企業と差別化できるとすれば、この向上心と勤勉さ以外にはありません。

これからも大切なことは、慢心することなく、一人ひとりが思考力を深める努力をすることです。やらなければならないことは、すべて愚直にやりつづけることです。

「ただ一度限りの人生、精一杯勉強し、力一杯働き、思う存分楽しむ」という当社の「基本理念」を胸に刻み、この順番を問

違えることなく、道半ばの「一流企業人への道」を謙虚に歩みつづけてみましょう。

「一部指定セレモニー」

3月3日、東京証券取引所にて

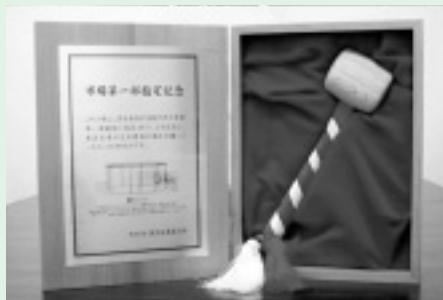
（右、
株東京証券取引所
土田社長



市場第一部指定書を受領



東証伝来の立会開始の鐘を記念に打鐘



市場第一部指定記念品

メジャーリーグ入り

専務取締役 国内営業本部長 小高 伸介

2月27日、松井秀喜がニューヨーク・ヤンキースのオープン戦初戦でホームランを打った。まさに快挙だ。

3月3日、SPKは東証一部に昇格した。これまた快挙だ。

90年代、日本経済が「失われた10年」と言われ、不況の出口を探して試行錯誤を繰り返し、企業経営が困難の続く時期に、当社は飛躍的な発展を遂げ、業界初の偉業を達成した。

思い返せば、40年前、青雲の志を胸に抱いて、大同自動車興業に入社した。当時、自動車のアフターマーケットはモーターレーゼーションの真っ只中で、当社も時流に乗って業容は拡大の一途をたどっていた。次々と営業所を開設し若い所長が誕生した。わたしも33歳で、沖縄営業所長を拝命、翌年には仙台営業所に所長で赴任、がむしゃらに拡大路線をひた走ってきた。

しかし、いつも満たされない気持ち、胸の隅に澁（おり）となって溜まっていた。自分の人生を託した会社への不満と、平凡な人生を変えようとする自分への憤りのようなものであり、不完全燃焼の日々であった。

そんな時に、中嶋社長（当時は常務）から「このままでは大同はつぶれる」、「会社を変えよう」、「おまえも手伝え」、と熱っぽく語られ、以来、一流企業人への道へ踏み出された社長を、必死に追いかけたのである。

企業人生の晩節を迎え、これほど充実した日々を送ることができることに心より感謝したい。この充実感の源泉は、株式公開という企業人として最高の「夢」が追えたからだと思う。

真の中堅企業確立を目指し、不退転の決意で取り組まれ、溢れんばかりの情熱と、たゆまぬ努力で全社員を導かれた中嶋社長に、心から感謝申し上げます。また、全社員が一丸となり、目標必達の信念を胸に歯を食いしばり頑張ってきた力の結晶です。

メジャーリーグでは、社会的責任は一段と重くなります。一層の研鑽を重ね、関係各位との共栄を図り、メジャーにふさわしい企業になることを全社員と誓い合いたい。

選ばれし者の不安と希望

海外業務部 山本 創(39)

2003年3月3日、東証一部上場の朝、日本経済新聞に普段とはかなり違った気持ちで目を通す。あると分かっている、それを見つめるまで気が逸る。そして、ついにそれが目に飛び込んだ。「SPK」の三文字、そして、中嶋社長の顔写真。少し興奮気味に文面を読み進む。「伝統ある新しい企業」、「SPKの三文字に託された誠実、情熱、親切」、聞き慣れたキーワード達が何度も頭をめぐる。SPKを誇りに思う気持ちと同時に、格段に増した社会的責任の重さに、あらためて身が引き締まる。妻にまさきに記事を見せた。その妻の驚きの表情を見て、再び感動を覚える。夢の実現を実感した瞬間だった。

東証一部上場を果たした今、SPKという「企業」、そして、SPKマンという「人」の力にあらためて驚き、また感動している。誇りにさえ感じる。しかし、前述したように、この瞬間から今まではと比較にならないほどの大きな社会的責任が生じたことも正面から受け止めなければならない事実である。社内的にはもちろんのこと。得意先や客先など、対外的に「東証一部上場企業」としての自覚を常に持ち、責任を果たし続けなければならない。その意味では、今回の東証一部上場は、これから先、想像をはるかに越える努力が不可欠になると宣告されたも同然なのである。選ばれし者の不安と希望が交錯する、複雑な気持ちが頭を支配する。

3月3日、中嶋社長からメールが入る。「SPKマンがメジャーリーガーになる日」。タイムリーな表現に感心すると同時に、「夢は100億円企業」という文字が目に入る。この間髪を入れない新たな夢、目標の設定に、先程までの複雑な気持ちも吹き飛ばす。東証一部上場を果たした今、既に昨日までの夢はかなったという事実は今更のように気づく。もう昨日までの夢の実現に酔っている暇などないことに気づかされる。気持ちは「100億円企業」の実現に向け、既に動き始めた。